



UNESCO 世界遺産

「バーミヤーン渓谷の文化的景観と古代遺跡群」に関する国際シンポジウム

バーミヤーン遺跡の「今」

開催日時：2025 年 9 月 28 日（日）
13:00 ～ 16:45（12:30 開場）

会場： 東京文化財研究所 地階セミナー室
（東京都台東区上野公園 13-43 最寄駅 [鶯谷]）

開催方法：対面（Web 配信はありません）

定員： 90 名（先着順、事前申込者優先）

言語： 日本語／英語（同時通訳あり）

お問い合わせ事務局：帝京大学文化財研究所

E-mail: Bamiyan0928@gmail.com

電話 :055-261-0015(担当 : 山田)



事前申込先：

<https://forms.gle/Sb2fQK6ynH4VWYUr5>



主催：帝京大学 共催：UNESCO 後援：外務省

■開催趣旨

アフガニスタン中部のバーミヤーン渓谷はシルクロードの要衝として栄え、1 世紀から 13 世紀にかけて多様な文化が交錯しました。3 世紀から 8 世紀を中心に仏教が盛え、断崖には磨崖仏や石窟群が造られ、その後のイスラーム期にもその繁栄は続きました。2001 年に起きた西大仏、東大仏の爆破は国際社会に大きな衝撃をもたらしましたが、その後同地域は UNESCO や日本の支援を受け、2003 年に『バーミヤーン渓谷の文化的景観と古代遺跡群（バーミヤーン遺跡）』として世界遺産リストに登録されました。以来、様々な組織や専門家の連携下で、バーミヤーン遺跡の保護を通じた継続的な支援が続けられています。

一方で、近年、バーミヤーン遺跡周辺の都市開発が進む中で、その文化的景観が変容してきていることも懸念されており、「人々の生活」と「遺産の保存」を両立させるための観光開発といった新たな取り組みも始まっています。

本シンポジウムに先立ち、バーミヤーン遺跡の「今」を知る専門家が世界各地から日本に集い、バーミヤーンの「未来」について議論する専門家会議を行います。本シンポジウムは、専門家会議の成果を反映しつつ、これまでの UNESCO と日本を中心としたバーミヤーン遺跡への保護活動を振り返ると共に、新たなフェーズを迎えているバーミヤーン遺跡の現況を共有し、今後の展望を一緒に考えます。

■当日プログラム

13:00-13:05 会場案内・プログラム説明

13:05-13:15 開会挨拶

- ・沖永佳史（帝京大学 理事長）
- ・Brendan Cassar（UNESCO プログラムオフィサー）
- ・未定（外務省）

13:15-13:25 プロローグ映像上映：世界遺産バーミヤーン遺跡の概況

第一部

13:25-14:00 基調講演「バーミヤーン遺跡の 20 年と今」
講演者：山内和也（帝京大学文化財研究所 教授）

14:00-14:25 講演 1 「アフガニスタンにおけるユネスコの保護活動（仮）」
講演者：Brendan Cassar（UNESCO プログラムオフィサー）

< 休憩・映像上映 >

14:25-14:40 映像上映「カレーズ・プロジェクト：水システムの回復」

第二部

14:40-15:00 講演 2 「バーミヤーン壁画の保存修復から見てきたもの」
講演者：谷口陽子（筑波大学 教授）

15:00-15:20 講演 3 「バーミヤーン遺跡での保存修復活動：計画と実施」
講演者：Fabio Colombo（保存修復専門家）

15:20-15:40 講演 4 「バーミヤーン文化的景観の未来」
講演者：Mirella Loda（フィレンツェ大学 教授）

< 休憩 >

第三部

15:50-16:40 パネルディスカッション「専門家会議から見てきた新しいアプローチ」
コーディネーター：岩井俊平（龍谷大学 教授）

16:40-16:45 閉会挨拶
山内和也

